身体の状態変化を表すオノマトペ
－外国人学習者の日本語教育の視点に立って－

李　東　一*

1．はじめに

オノマトペとはフランス語の“ONOMATOPEE”が語源であり、擬音語・擬声語・擬態語の総称である。擬音語・擬声語（本稿では両者を合わせて、擬音語と称する）は、音の規範によって物事や動物を命名したり、それによって言葉を作ったりするもので、聴覚によって知覚される事物の状態を表すものをいう。

外界の音や動物の鳴き声などを言語音によって写した「コケコッコウ」（鶏の鳴き声）、「モウモウ」（牛の鳴き声）、「ワンワン」（犬の鳴き声）、「波がザーッと押し寄せる」、「ガチャンとガラスが割れる」などの一連の単語がこれらである。また擬音語は、主に片仮名で表記される場合が多い。

一方、他の事物の状態を表すもの、音のしない事物の様子をあたかも音のするように言語音によって描写する「すくすく」、「どきどき」、「わくわく」などの単語は擬態語と呼ばれる。

これらは非常に短い音節で構成され、そのリズムや表現・描写力により日本語を母語とする者なら即座にその意味と内容が理解できる言葉である。テレビや小説・漫画・雑誌・広告などでは特に鮮烈、且つ瞬間的に私たちの心に入ってくる。そしてなにより、日本語母語話者の日常生活の中ではあらゆる場面に登場している。例えば、①「胸がどきどきする」②「ぽかぽかとした陽だまり」などは①「緊張」「激しい運動」または「不安・恐怖・驚き」などで心臓の鼓動が速くなるようす、②「暖かい穏やかな天気の様子」「春」「安らぎ」「平和」など様々な状況が瞬時に連想され伝達される。

＊李東一：別府大学大学院博士後期課程

オノマトペは具体的な事象を主に口語的に表現する語彙で、コミュニケーションを図る上で重要なものであるが、一般的に平仮名あるいは片仮名で表記されるため、漢字を習得している日本語の学習者であってもその習得が難しい。音に対する感性や、文化的、歴史的背景が異なることも学習困難の原因である。そして、なによりも感覚的な表現であるため、理解と習得に時間がかかる。

オノマトペは、日常の日本語の会話の中で頻繁に使用され、簡便で物事を鮮烈に伝えることができるのである。特に、身体の状態変化に関わる場合、これらのオノマトペを用いることは、そうではないときと比較しても、その効果や高い伝達能力を持つと考える。オノマトペは、どの言語にも存在するが、人の見え方、聞き方などの感じ方はそれぞれ違い、即興的、臨時的occasionalにも作られ、造語力も強いものである。そのため、外国人学習者にとっては、より理解が困難であり、また日本語教育の視点からも学習者へのその説明は大変難しい。

そこで本稿では、身体に関わる状態変化において、どのようなオノマトペがあり、どのように用いられているのか、また、その微妙な差異を用例を挙げ整理していく。そして、特に身体の痛みやその変化に関するオノマトペには、どのような感覚の違いを持つのかを調査し、日本語会話の一つとしてこれらを考察したい。

外国人の学習者が効率的に実際に使われている生きている日本語のオノマトペを身につけるためには、例文を通して学習する方が望ましいのである。

そこで、日本語を母国語としない外国人学習者にどのようにオノマトペを導入したら効率的に学習がすすむかを多角度に試みて見た。

2．オノマトペの音声形成と意味的特徴との相関

オノマトペの特徴には、音節構造、拍に加え、語基以外の「り」・促音・撥音・反復によって、意味の差が生じることが挙げられる。

Ａ～Ｄはそれぞれ共通の２音節の語基「ごろ」「ぽき」「ぽろ」「ぽと」を持ち、よく似た意味を表す。しかし、前述したように「り」・促音・撥音・反復によっ

てその意味は異なる。そこで、以下の表と共に、意味差異をそれぞれみていくことにする。

〈語基以外の「り」・促音・撥音・反復にみられる意味的特徴〉

A	ごろり	ぽきり	ぽろり	ぽとり
B	ごろっ	ぽきっ	ぽろっ	ぽとっ
C	ごろん	ぽきん	ぽろん	ぽとん
D	ごろごろ	ぽきぽき	ぽろぽろ	ぽとぽと

《「り」》

「り」語尾を持つ「ごろり」と促音を持つ「ごろっ」を比較すると、両者とも基本的には、比較的重量のあるものが一転がりする様子を表す。しかし、「り」は促音を持つものより動作がゆったりと遅く感じられる。「ごろごろ」と「ごろりごろり」の比較で田村（1993）[1] は、「ごろごろ」が「転がるという動作の継続」表すのに対し、「ごろりごろり」では「転がるという動作の繰り返し」を表すとし、「り」語尾の特徴として、「ゆったりとした感じ」ないし「完了」を表すと推測している。

ごろり　（重量があるものが転がり止まる音や様子）
ぽきり　（細くて硬いものが折れる音や、それ以上動くことが無い様子）
ぽろり　（粒状の物が落ちたり、物の一部が欠け落ちて止まる様子）
ぽとり　（しずく、または小さな物が落ちて止まる音や、その様子）

《「促音」》

日本語のオノマトペに現れる促音には、語末に付加されるものと、語中におこるものの２種類がある。語末に付加される促音には、「ぱっ」「はっ」「さっ」のように、１音節に付くものと、「ごろっ」「ぽきっ」「ぽろっ」のように２

1）田村育啓（1993）「月刊　言語」６月号 pp. 70-78.

音節に付くものがある。前者の場合は「瞬時性」を、そして後者の場合は「急な終わり方」を表すようである。一方、語中におこる促音は、「ばっさり」「ばったり」などに見られるが、「ばさり」「ばたり」といった促音を含まない形態と対応している場合が多いので、語中に挿入される促音を、「強調」の挿入辞とみなすことが出来る。

ごろっ　（比較的比重のあるものが瞬時に転がりかけること、あるいは転がる様子

ぽきっ　（細くて硬いものが瞬時に折れる音や様子）

ぽろっ　（瞬時に粒状の物が一粒落ちたり、物の一部が欠け落ちる様子）

ぽとっ　（瞬時にしずく、または小さな物が落ちる音や、その様子）

《「撥音」》

撥音も促音同様、オノマトペの語末と語中に現れるものの２種類がある。語末の撥音は「ぱん」「ぽん」「こん」や「どかん」「ぽとん」「がたん」等のオノマトペに見られるが、ほとんどが擬音語であり、これらは「共鳴」を表している。田村（1993）によれば、「ぼんやり」「ふんわり」等の語中に起こる撥音は、「ふわり」以外、「ぼやり」といった撥音を含まない対応形が存在しないため、「強調」の挿入辞とはみなさない方がよさそうである。

ごろん　（比較的比重のあるものが共鳴して転がる様子）

ぽきん　（細くて硬いものが共鳴して折れる音や様子）

ぽろん　（粒状の物が一粒落ちたり、物の一部が共鳴したように欠け落ちる様子）

ぽとん　（しずく、または小さな物が共鳴したように落ちる音や、その様子）

《「反復」》

反復は、「ごろごろ」「ぽきぽき」「ぽろぽろ」「ぽとぽと」「がやがや」「ぎゃー

ぎゃー」等からも分かるように、音や動作の繰り返し、あるいは連続を表す。反復は「延び延び」「人々」「青々」等、漢語や和語にも見られるが、「複数」や「強調」を表す。

ごろごろ　(比較的比重のあるものが共鳴して転がり続ける様子)
ぽきぽき　(細くて硬いものが続けて折れる音や様子)
ぽろぽろ　(粒状の物が一粒ずつ連続して落ちたり、物の一部が続けざまに欠け落ちる様子)
ぽとぽと　(しずく、または小さな物が落ち続ける音や、その様子)

形態と意味における関係は以上のようである。日本語オノマトペの接続には、いくつかの形があるため、以下で紹介する。

A. 擬音語・擬態語には文法上は副詞とされており、動詞を修飾する場合「と」を伴うものが多い。そして、「と」を伴う場合は、動きそのものの状態・過程を修飾している。

① 子猫がにゃーにゃーと鳴く。
② どんどんとドアをたたく。
③ 冷たい風がさーっと吹きぬけた。
④ 一人の男がどかどかとはいってきた。
⑤ いきなり右手をぎゅっとつかまれた。

B. 状態の変化を示すときは「に」を伴うことが多い。事柄の実現した結果を修飾する際に用いられる。

① 車はめちゃめちゃにこわれた。
② へとへとに疲れて帰ってきた。
③ 靴をぴかぴかに磨く。
④ 父がかんかんとおこった。
⑤ ぼこぼこに殴られた。

C．また、「する」をともなって、動詞として使われるものがある。心理状態を表すものに多く見られる。

① くよくよすることはないよ。

② いらいらして眠れない。

③ あの人はいつもせかせかしている。

④ あの人はいつもせこせこしている。

⑤ 胸がむかむかする。

さらに詳しく、擬態語の文法上の特徴を大きく分類するといか３つのようになる。

A．副詞タイプ（活用がなく、主に連用修飾語として用いるもの）

(1) 一般的に副詞と呼ばれているもので、末尾に「と」を伴わず、そのままの形で用いる。

(例) いよいよ出発だ。いちいちうるさい。わざわざでかける。

(2) そのまま、あるいは末尾に「と」を伴って、副詞として用いるもの。

(例) おずおず（と）差し出す。ほかほか（と）温かい。

(3) 末尾に「と」を伴って、副詞として用いるもの。

(例) ろうろうと歌おう。(音が澄んでよく通る様子) もんもんと悩む。

B．サ変動詞タイプ（末尾に動詞「する」を伴って、サ行変格活用型の複合動詞として用いるか、あるいは格助詞)「と」＋する」を伴って用いるもの。

(例) うきうき（と）して、 ぼさぼさ（と）した髪、 うじうじ（と）するな。

C．形容動詞タイプ（末尾に形容動詞の活用語尾を伴って）用いる。ただし、名詞がくる場合（連用形）には、形容動詞の活用語尾「ーな」の代わりに、「ーの」を用いる場合が多い。

(例) 意見がばらばらだ。 へとへとに疲れる。

3．身体の状態変化を表す日本語オノマトペの意味と用例

本稿でいう身体状態変化とは、特に痛みや異変、病状等を訴えるときに使われるオノマトペのことを言う。そこで、このような状態変化を伴う場合、どのようなオノマトペが用いられているのかを用例を挙げて考察する。

身体部位とオノマトペの用例は、一般的にその部位に使用される頻度が高いものをまとめた。そして、意味・用例の引用には金田一春彦（1978）[2]、日向茂男、日比谷潤子（1989）[3]、山本弘子（1993）[4]、日向茂男（1991）[5]、尾野秀一（1991）[6] から引用し、作成した。

＜身体の状態変化を表す日本語オノマトペ＞

1）オノマトペ：がくん、がくっ、がくり、がくんがくん

身体部位：体・歯・足・ひざ・関節

意味：固定してある部分が離れて力を加えると働く状態。はまっているもの、組み立ててあるものについていう。また、体が小刻みに震える様子。肉体的には、寒気、力の入れすぎ、使いすぎによるほか、恐怖や興奮などの感情的ショックが原因になる場合も用いられる。

〔同類語〕：「がくっ」「がくり」「がくん」は、一回だけの表現。「がくんがくん」は働き方が大きくなる。

〔類義語〕：「がたがた」「ぶるぶる」

〔用例〕

(1)　奥歯ががくがくして抜けそうなので、何にも噛めない。

(2)　見るとひじの関節が外れて、がくがくになっている。

(3)　あまり寒くて歯の根が合わず、がくがく震えていた。

2）金田春彦（1978）「擬音語・擬態語概説」角川書店

3）日向茂男、日比谷潤子（1989）「外国人のための日本語　例文・問題シリーズ 14　擬音語・擬態語」荒竹出版

4）山本弘子（1993）「すぐに使える実践日本語シリーズ１　擬音語・擬態語」専門教育出版

5）日向茂男（1991）「擬音語・擬態語の読本」小学館

6）尾野秀一（1991）「日英擬音・擬態語の活用辞典」北星堂

(4)　足もとは断岸絶壁。おそろしさで膝ががくがくして、後ろへも引けない。

(5)　力を入れてふんばろうとしたら、膝ががくがくした。

2）オノマトペ：かさかさ、がさがさ

身体部位：口・唇・顔・肌・皮膚・手・足

意味：表面が乾燥していたり、水分や油が抜けている様子。水分が抜け、表面に隆起や割れ目が出来て滑らかでない状態。またその感触。

〔同類語〕：「がさがさ」は「かさかさ」に比べ、さらに荒れている様子。

〔用例〕

(1)　熱でくちびるがかさかさに乾いている。

(2)　一日中空っ風にさらされて仕事をしたので、頬がかさかさだ。

(3)　かさかさした肌。

(4)　かさかさした手。

(5)　手の甲ががさがさする。

3）オノマトペ：がたがた、がたがたっ

身体部位：足・体・ひざ

意味：小刻みに震えたり揺れたりする様子を表す。その他には、心身の不安定や恐怖のショックで肉体が震える様子。恐れおののいて落ち着かない心理状態や態度などを言う場合にも用いられる。

〔同類語〕：「がたがたっ」は、震えるの強調。

〔類義語〕：「がくがく」「ぶるぶる」

〔用例〕

(1)　ひどい寒さで体ががたがた震えてとまらない。

(2)　始めに教壇に立ったときはがたがたと震えて、黒板に文字も書けなかった。

(3)　ひざがたがたふるえる。

(4)　寒くてがたがたふるえだす。

(5)　夜も昼もがたがたふるえている。

4）オノマトペ：かちかち、がちがち

身体部位：肩・体

意味：凍ったり凝り固まったりして堅くなっている様子や緊張で体を自由に動かせない様子。また、人間の考え方や性質などにも比喩的に用いられる。

〔同類語〕：「がちがち」は、物質がより丈夫であることを表す。

〔類義語〕：「こちこち」に比べ「ごちごち」は、はねかえすような固さで凝り固まっている様子を表す。

〔用例〕

(1)　疲労がたまって肩がかちかちになった。

(2)　運動不足のせいか体ががちがち固まっている。

(3)　初舞台でかちかちになる。

(4)　はじめてのスピーチでがちがちになる。

5）オノマトペ：からから

身体部位：喉・口

意味：水分がすっかりなくなっていて、乾ききった状態。

〔用例〕

(1)　喉がからから渇く。

(2)　のどがからからだ。水をくれ。

6）オノマトペ：がらがら

身体部位：喉

意味：かすれた声やその状態。

〔用例〕

(1)　がらがらな（の）声。

(2)　風邪で声ががらがらになった。

(3)　今日は朝から喉ががらがらだ。

7）オノマトペ：がんがん

身体部位：頭

意味：頭が強く激しく連打されているように痛む様子や非常に興奮して心臓の鼓動や血行が早くなるような場合に用いられる。

〔用例〕

(1)　頭ががんがんする。

(2)　二日酔いで頭が割れるようにがんがん痛い。

(3)　いよいよ出場だと思うと心臓ががんがん鳴って今にも破裂しそうだ。

(4)　頭をなぐられてがんがんしている。

(5)　風をひいたらしく頭の中ががんがんとするので、病院に行った。

8）オノマトペ：ぎらぎら

身体部位：顔

意味：強烈にまた、どぎっつくひかり輝く様子。

〔用例〕

(1)　ぎらぎら油ぎった顔の男。

(2)　顔のぎらぎら脂ぎったこの中年の農夫は、大きな手で種をまき、苺を作っている。

9）オノマトペ：ぐーぐー、ぐー、ぐう

身体部位：腹・喉

意味：腹のすいた時や物を飲むときに、腹や喉がなる音や様子。

〔同類語〕：「ぐー」「ぐう」は一回の音。

〔用例〕

(1)　腹が減って、ぐーぐー鳴る。

(2)　難民たちの米の配給は極度に少なく、大部分は腹が減ってぐーぐー

鳴っているという。

(3)　ぺこぺこで腹がぐーぐー鳴った。

10) オノマトペ：くたくた、ぐたぐた

身体部位：体

意味：疲労や心理的ショックで体の力が抜けてしまった様子。非常に疲れているときにも用いられる。

〔同類語〕:「ぐたぐた」は「くたくた」を強調した表現で、ほとんど同意である。

〔類義語〕:「ぐったり」「へとへと」

〔用例〕

(1)　朝からずっと働いていたのでくたくただ。

(2)　一日中買い物をしてまわってくたくたに疲れ、口をきくのもおっくだ。

(3)　満員電車に六時間も立ち詰めで、もうくたくただ。

(4)　一日中働いて、夜にはもうくたくたになってしまう。

(5)　毎日遅くまで残業があって、くたくただ。

11) オノマトペ：ぐったり、ぐたっ、ぐたり

身体部位：体

意味：疲労や落胆などのために体中の力が抜け、本来の状態や気力をたもったことが出来なくなった様子。

〔同類語〕:「ぐたっ」「ぐたり」も同じ意味であるが、「ぐったり」が少し強調した調子になる。

〔類義語〕:「くたくた」

〔用例〕

(1)　みんなぐったり椅子に寄りかかって立ち上がる元気もない。

(2)　ゴルフコースを半分もまわるとぐったり疲れてしまう。

(3)　抱き起こしてみるとぐったりして、正体もなく酔っ払っている。

(4)　あまりの厚さにみんなぐったりとしている。

(5)　その少年は疲れてぐったりとしていた。

12) オノマトペ：くらくら、くらっ、くらくらっ、ぐらぐら、ぐらっ、ぐらぐらっ、ぐらり、ぐらりぐらり

身体部位：頭・目・歯

意味：めまいがする様子や安定せず揺れたり動いたりしている状態。心理状態をいうときにも用いられる。

〔同類語〕：「くらっ」「ぐらっ」「ぐらり」は、一瞬めまいや大きく揺れる表現であり、「くらくらっ」「ぐらぐらっ」は、強調した言い方。

〔用例〕

(1)　危篤と聞いて一瞬くらくらと来て、目の前が真っ暗になった。

(2)　いきなり立ち上がったら、くらくらとめまいがして、またしゃがみこんでしまった。

(3)　急にひなたに出ると、頭がくらくらする。

(4)　電車の中で急にくらくらしてしゃがみこんでしまった。

(5)　二日酔いで頭がぐらぐらする。

13) オノマトペ：くるくる、ころころ

身体部位：腹

意味：腹の中で回転したり、ある範囲を何回も輪を描くように移動するような様子。また、消化する様子を表す。

〔同類語〕：「ぐるぐる」「ごろごろ」

〔用例〕

(1)　お腹がぐるぐるして、便意をもよおす。

(2)　牛乳を飲みすぎせいか、さっきからお腹がごろごろする。

14) オノマトペ：げーげー

身体部位：胃

意味：胃からものを吐き出そうとする音やその様子。

〔同類語〕：げろげろ

〔用例〕

(1)　げーげーと苦しそうに吐こうとするが、何も出ない。

(2)　食べたものを道ばたにげーげー吐いてしまった。

(3)　友だちと飲んだ後、胃がむかついてげーげーと苦しそうに吐こうとするが、何もでなかった。

(4)　帰省バスに酔ってげーげーやって、窓の風景を眺めるどころではなかった。

15）オノマトペ：げろげろ

身体部位：胃

意味：胃の中のものを続けて吐き出す音やその様子。

〔類義語〕：「げーげー」は、吐こうとして喉が鳴らす音が主であるのに対し、「げろげろ」は吐瀉物が流れ出る音や様子を含めた表現。

〔用例〕

(1)　食べたものをげろげろとみんな吐いてしまった。

(2)　深夜のプラットホームではげろげろやっている男たちが必ずいて、いやなもんだね。

(3)　船酔いでげろげろ。風景を眺めるどころではない。

16）オノマトペ：こちこち、こっちんこっちん、ごちごち

身体部位：肩・体

意味：本来、柔軟なものが非常に硬くなって弾力性がなくなっている状態や心理が緊張して働かない状態を表す。

〔同類語〕：「こちんこちん」「こっちんこっちん」は、強調形。

〔類義語〕：「かちかち」「がちがち」

〔用例〕

(1)　肩がこちこちに凝ってしまった。少しもんでおくれ。

(2)　面接試験のときはこちこちに緊張して分かっていることも答えられ

なかった。

(3)　校長室に呼ばれた生徒はこちこちになって直立不動。

(4)　面接の前であがってごちごちになる。

17) オノマトペ：ころころ、ごろごろ

身体部位：目・腹

意味：目の中に小さい異物が入って違和感がある様子。腹の具合いは、かなり重量のあるものが転がるような音の様子を表す。この場合は擬音語となる。

〔同類語〕：目の場合は「ころころ」「ごろごろ」、腹の場合は「ごろごろ」のみ。

〔用例〕

(1)　目にごみがはいってごろごろする。

(2)　お腹がごろごろいう。

(3)　お腹がごろごろする。トイレに行こう。

(4)　お腹の具合いが悪いと見えて、ごろごろ鳴る。

(5)　目の中がごろごろしていたい。

18) オノマトペ：ざわざわ、ぞくぞく

身体部位：体

意味：熱、気味悪さなどで悪寒を感じる様子。

〔用例〕

(1)　夕方から、ざわざわ寒気がすると思っていたら、風邪のようだ。熱がある。

19) オノマトペ：しくしく

身体部位：腹・歯

意味：鈍い痛みが深いところで小刻みに続く様子。あるいは、それほど激しくはないが、絶えず痛む様子。

〔用例〕

(1)　食べ過ぎたせいか、腹がしくしく痛む。

(2)　冷たい物を飲むと歯がしくしくと痛む。

(3)　奥歯が虫歯になったらしい。しくしくして、気になる。

(4)　何か食あたりしたらしい、腹がしくしく痛み出した。

20）オノマトペ：しょぼしょぼ

身体部位：目

意味：まぶたを開いていることが出来ず、目が疲れて開けていらえない様子。

〔用例〕

(1)　長時間小さな字をみていると目がしょぼしょぼしている。

(2)　疲れた目がしょぼしょぼする。

(3)　しょぼしょぼした目でみる。

(4)　寝不足の目をしょぼしょぼとさせて起きてきた。

(5)　眠くて目がしょぼしょぼする。

21）オノマトペ：じん、じーん、じんじん

身体部位：手・足・指・ひざ

意味：長く座るなど血行不良でしびれる様子や冷気・痛み・感動などが脈を打つように心身にしみる様子。

〔同類語〕：「じーん」「じんじん」は、痛みが畳みこんでくる状態。

〔用例〕

(1)　手足がじんとしびれる。

(2)　つま先がじんとしびれる冷たさ。

(3)　まぶたの奥がじんと痛み、それがこめかみのほうへ移って行って、ひどい頭痛になった。

(4)　胸にじんとくるような、感動的な親子の対面だった。

(5)　耳をいきなり殴られ、じーんと痛みが走って気を失った。

22) オノマトペ：ずきずき、ずきんずきん、ずっきんずっきん、ずきん

身体部位：頭・歯・腹・腸・胸

意味：脈を打つように連続して痛みが襲う様子。

〔同類語〕：「ずきんずきん」「ずっきんずっきん」などの撥音・促音が伴えば、さらに痛さを表し、脈打つ感じがより強い。「ずきん」は一回強烈な痛みが走る場合の表現。

〔用例〕

(1) 腫瘍が膿んできたらしい。ずきずき痛む。

(2) 脳天に響くように、ずきずきと頭が痛むんだ。

(3) それを思い出すたびに、ずきずきと心に痛みを覚えるのであった。

(4) 傷が一晩中ずきずきして眠れなかった。

(5) 包丁で切った傷がずきずき痛む。

23) オノマトペ：すべすべ

身体部位：顔・肌・頬・手

意味：物の表面の手ざわりがなめらかでざらつきのない様子。

〔類義語〕：「つるつる」

〔用例〕

(1) 湯上がりにクリームを塗った頬や手が、すべすべして気持がよい。

(2) すべすべと、きめの細かい肌をしている女。

(3) 母は年のわりに肌がすべすべしている。

(4) この温泉に入ると。肌がすべすべになるんだって。

(5) すべすべの肌。

24) オノマトペ：ちかちか

身体部位：目

意味：光線、微生物などの刺激で目が刺されるように継続的に痛む様子。

〔用例〕

(1) 目がちかちかする。テレビの見過ぎらしい。

(2)　眼鏡の度が合わなくなったのか、細かい数字を見ると目がちかちかするんだ。

(3)　梅雨明けのころから、目のちかちかを訴えはじめた。

(4)　光化学スモッグにやられると、まず、目がちかちかと痛みだす。

(5)

25) オノマトペ：つん、つんつん

身体部位：鼻

意味：強く鋭い刺激を鼻に受け、一瞬突き刺されるように感じる様子や刺激的な臭いを嗅いで、鼻が刺されるような感じが連続する様子。

〔用例〕

(1)　悪臭がつんと鼻をつく。

(2)　からさが鼻から頭へつんと抜ける。

(3)　薬のにおいがつんと鼻をついた。

(4)　わさびが利いている。つんとくる。

(5)　消毒液のにおいがつんつんして、頭が痛くなってくる。

26) オノマトペ：てかてか

身体部位：顔・鼻

意味：「つやつや」より安っぽい感じで光っている様子。あまりいい意味でつかわれないことが多い。

〔類義語〕：「てらてら」「ぴかぴか」

〔用例〕

(1)　汗でてかてか光る顔を、テレビのライトが大写しにする。

(2)　弟の鼻の頭は、脂でてかてかしている。

(3)　てかてかした頭。

(4)　脂ぎってててかてかとした顔。

27) オノマトペ：どきどき、どきどきっ、どっきんどっきん、どきんどきん

身体部位：胸・心臓

意味：激しい運動、または不安・恐怖・驚きなどで心臓の動きが速くなる様子。撥音・促音を伴えばさらに強い印象を与える。

〔同類語〕:「どきんどきん」は「どきどき」より更にゆっくり脈打つ感じの表現。「どきどきっ」は「どきどき」を強調した形。「どっきんどっきん」は「どきんどきん」の強調である。

〔用例〕

(1) 発作をおこると、心臓がどきどき高鳴る。

(2) 自分の発表の番が近づくにつれて、胸がどきどきしてきた。

(3) 階段を上がるだけで胸がどきどきする。

(4) 面接を控えて胸がどっきんどっきんしている。

(5) 心臓がどきどきと打つ。

28) オノマトペ：ぱんぱん

身体部位：腹・顔・手・足

意味：破裂したら音がしそうなぐらい腫れ上がった様子。はちきれそうにいっぱいである様子。

〔類義語〕：「ぽんぽん」は弾む感じ。

〔用例〕

(1) 朝からご馳走ぜめでおなかがぱんぱんだ。

(2) 馬は、草から生野菜、パン、残飯、何でも食べてお腹がぱんぱんだ。

29) オノマトペ：びくっ、びくり、びくん、びくびく

身体部位：体・心臓・足

意味： 一瞬、急激に動く様子。また、刺激に感じたように小刻みに震え動く様子。

〔同類語〕：「びくっ」は、いくぶん勢いが弱い。「びくり」「びくん」は、動きがより大きく、時間もやや長い感じの表現。

〔用例〕

(1)　ちょっとした物音のも体をびくっとけいれんさせる。

(2)　びくんと心臓が動き、再び鼓動をはじめた。

(3)　長く腰かけていると足がびくびくけいれんするのです。

30）オノマトペ：ぷつっ、ぷつり、ぷつん、ぷっくり

身体部位：皮膚・肌・額

意味：「ぷつっ」は、ごく小さな粒上の突起や穴がたった一つある様子。また、急に現れる様子。「ぷっくり」は丸く膨らんでいる様子。

〔用例〕

(1)　にきびがぶつぶつできる。

(2)　皮膚にぶつぶつできる。

(3)　肌にぶつぶつと湿疹が出ている。

(4)　ぷつっと虫に刺されただけと思っていた赤い点が一晩で腫れ上がってしまった。

(5)　額の真ん中に小さなにきびがぷつっ。

31）オノマトペ：ふらふら、ふらふらっ

身体部位：足・頭・体

意味：勢いがなく不安定に揺れ動く様子。また精神状態にも用いられる。

〔同類語〕：「ふらふらっ」は強調した表現。

〔用例〕

(1)　一日中なにも食わずに歩き続けたので、足がふらふらする。

(2)　青い顔をしてふらふらと立ち上がったと思うと、すぐしゃがみ込んでしまった。

(3)　ゲームセットのときはふらふらになってしばらく口もきけぬほどだった。

(4)　昨晩は徹夜したために頭がふらふらだ。

32) オノマトペ：へとへと

身体部位：体

意味：体の力が抜けてしまうほどに疲れる様子。

〔用例〕

(1) 交通機関にストをやられると、会社に着くまでにへとへとになっちまうよ。

(2) へとへとでもう歩けない。

33) オノマトペ：むかむか

身体部位：胃・胸

意味：吐き気がする様子や怒りが込み上げてくる様子。

〔用例〕

(1) 車に酔ったらしくて、胸がむかむかする。

(2) 二日酔いで、胸がむかむかする。

(3) 食べ過ぎたのか、胸がむかむかする。

(4) つわりの時は食べ物ののにおいをかいただけでむかむかしてくる。

34) オノマトペ：むずむず

身体部位：鼻・背中・足

意味：体や皮膚、粘膜の上を小さな虫が這い回るような感じ。特にかゆみや刺激を連続的に感じる様子。

〔用例〕

(1) 背中がむずむずする。

(2) アレルギーなので、スギの花粉がとぶ季節はいつも鼻がむずむずする。

(3) 鼻がむずむずして、くしゃみが出そうになった。

(4) 足の水虫がむずむずかゆくてたまらない。

35) オノマトペ：もぞもぞ、もそもそ、

身体部位：鼻・背中

意味：体に小さな虫などが這い回っているようにかゆい感じとその動きによって感じる気持悪さ。

〔用例〕

(1)　背中がもぞもぞする。

(2)　背中がもそもそする。虫でもはいったのかしら。

36）オノマトペ：よたよた

身体部位：足

意味：足どりや進み方がしっかりせず、重たく、ぶざまに歩く様子や足の運び自体のたどたどしさ、不自由さを表現する。

〔用例〕

(1)　大きい図体に足が短いので、動作がよたよたするのも仕方ない。

(2)　太っているうえ、通風の気があるので、足取もよたよたしている。

(3)　病後でまだよたよたしている。

(4)　老婆がよたよたと道を横切った。

意味、用例における引用は、金田一春彦（1978）、日向茂男、日比谷潤子（1989）、山本弘子（1993）、日向茂男（1991）、尾野秀一（1991）を参考にし、作者が整理、分類したものである。

4．おわりに

日本語のオノマトペは、日本人の感覚や感情を豊かに表現する言葉として日常生活の中で非常によく使われるが、オノマトペは日本語の中でも特殊な分野であるため、日本語を母語としない外国人には、意味や使い方を理解することが大変難しい。そのうえ、日本語の辞書や教科書・教材でも十分な解説を用意しているとは言えず、日本語学習歴の長い外国人学習者にとってもその認知度は高くない。

しかし、日本に留学、就職のために在留している外国人などが身体に異状をきたした場合や緊急に要する場合は、これらの表現が必要とされる。

【参考文献】

金田春彦（1978）「擬音語・擬態語概説」角川書店

田村育啓（1993）「月刊　言語」６月号

山本弘子（1993）「すぐに使える実践日本語シリーズ１　擬音語・擬態語」専門教育出版

日向茂男、日比谷潤子（1989）「外国人のための日本語　例文・問題シリーズ14　擬音語・擬態語」荒竹出版

日向茂男（1991）「擬音語・擬態語の読本」小学館

尾野秀一（1991）「日英擬音・擬態語の活用辞典」北星堂